

彙報

会長 田 窪 行 則

——常任委員会——

2019年度第2回常任委員会

日 時：2019年10月22日（祝）13:00～17:00

場 所：キャンパスプラザ京都 6階第1講習室

出席者：田窪行則（会長）江口 正、菊澤律子、久保智之、桐生和幸、千田俊太郎、中谷健太郎、野田尚史、米田信子、渡辺 己（以上、常任委員）、有田節子（事務局長）

オブザーバー：井上 優（編集委員長）、山越康裕（大会運営委員長）、金城由美子、早田清冷（以上事務局委員）

（欠席：小野尚之、福井直樹 常任委員、小泉政利 広報委員長）

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第159回大会（2019年秋季大会）：2019年11月16～17日、名古屋学院大学（大会実行委員長：今仁生美氏）
 - 第160回大会（2020年春季大会）：2020年6月20～21日（予定）、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
 - 第161回大会（2020年秋季大会）：（日程未定）、東北学院大学（大会実行委員長：豊島孝之氏）
 - 第162回大会（2021年春季大会）：（日程未定）、神奈川大学（大会実行委員長：片岡喜代子氏）
 - 第163回大会（2021年秋季大会）：（日程未定）、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）
- (3) 各種委員会からの報告

- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告
 - ・6月16日（日）に運営委員会が行われたこと、12月14日（土）に意見交換会、2019年11月23日（祝）に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。
 - (5) 事務局からの報告
 1. 九州北部豪雨、台風15号・19号の被災者に対する会費免除について新規に実施し、2020年3月31日（火）まで申請を受け付ける。
 2. 会費滞納者への督促について10月に事務局により督促が行われる予定である。
 3. 2020年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について活動報告書・会計報告書の提出期限、活動内容を学会ホームページを通して広報するなど募集要項の内容の留意点について応募者に喚起の上、募集することにした。
 4. 夏期講座の事務委託契約について参加登録システムの提供、参加登録受付事務について中西印刷株式会社と委託契約を行った。
 - (6) 聴覚障害を有する会員への支援について
 - ・158回大会から第1回評議員会で改訂した申し合わせ（手話通訳従事時間に打合せ時間を含める）により支払いを行ったこと、159回大会は支援の申し込みがなかったことが報告された。
 - (7) 人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について
 - ・参加学会から会員数に応じた活動分担金を徴収する予定であることが報告された。
- #### [審議事項]
- (1) 2020年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について
 - ・準備中の計画調書について加筆・修正内

容を検討し、引き続き修正を行った後申請を行うことを承認した。

- (2) ポスター発表活性化にともなう大会発表スケジュールの変更について
 - ・ポスター発表の活性化のため、応募を「口頭/ポスター/どちらでも」の3択とし、口頭発表を1会場6発表とし、ポスター発表のコアタイムを設けることが承認された。
- (3) YouTube チャンネルの開設とカスタムチャンネル URL の取得などについて
 - ・YouTube 公式チャンネルの開設に向け、適切なアカウント名の取得を行うことが承認された。
- (4) 「言語学オリンピック」への学会としての関わり方について
 - ・「国際言語学オリンピック」の国内選抜にあたる「日本言語学オリンピック」の開催について、学会として後援することを決定した。後援の具体的なあり方として、会場の提供、授業実施、問題作成等が考えられるが、これについては、さらに検討を重ねる。
- (5) 評議員選挙の選出方法について
 - ・評議員の地区別の定数割り当ての廃止について、評議員会で審議を行うことを決定した。

—— 評議員会 ——

2019 年度第 2 回評議員会

日 時：2019 年 11 月 16 日（土）10:00 ～ 12:30

場 所：名古屋学院大学しらとりキャンパス 翼館 401 号室

出席者：田窪行則（会長）、奥 聡、後藤 齊、伊藤たかね、井上 優、大津由紀雄、風間伸次郎、河内一博、窪菌晴夫、小林 正人、田中伸一、長屋尚典、西村義樹、長谷川信子、早津恵美子、福井直樹、福井 玲、松本 曜、渡辺 己、江畑 冬生、斎藤 衛、玉岡賀津雄、新田哲夫、堀江 薫、有田節子、梶 茂樹、金水 敏、佐々木冠、定延利之、千田俊太郎、

林 範彦、藤代 節、益岡隆志、宮本陽一、由本陽子、吉田和彦、米田信子、桐生和幸、青木博史、江口 正、久保智之、下地理則（以上、評議員 41 名）

委任状：29 名

オブザーバー：上野善道（顧問）、上山あゆみ、加藤重広（以上、会計監査委員）、山越康裕（大会運営委員長）、原田なをみ（前広報委員長）、金城由美子、早田清冷（以上、事務局委員）

議事に先立ち、大会実行委員長の今仁生美氏より挨拶が行われた。また 7 月 1 日に逝去された梅田博之氏、7 月 23 日に逝去された西光義弘氏のご冥福を祈り、黙祷が行われた。

[報告事項]

- (1) 今期の組織・役員について
 - ・今期の組織・役員が資料によって確認された。
- (2) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第 160 回大会（2020 年春季大会）：6 月 20 ～ 21 日（予定）、早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
 - 第 161 回大会（2020 年秋季大会）：（日程未定）、東北学院大学（大会実行委員長：豊島孝之氏）
 - 第 162 回大会（2021 年春季大会）：（日程未定）、神奈川大学（大会実行委員長：片岡喜代子氏）
 - 第 163 回大会（2021 年秋季大会）：（日程未定）、沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）
- (3) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (4) 言語系学会連合からの報告
 - ・6 月 16 日（日）に運営委員会が行われたこと、12 月 14 日（土）に意見交換会、2019 年 11 月 23 日（祝）に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。また「共催」制度が新設されたので、来年度の大会シンポジウム等で申請を検討する旨が報告された。

(5) 事務局からの報告

1. 九州北部豪雨, 台風 15 号・19 号の被災者に対する会費免除について
10 月 25 日 (金) より実施し, 2020 年 3 月 31 日 (火) まで申請を受け付ける。
2. 2020 年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について
活動報告書・会計報告書の提出期限, 活動内容を学会ホームページを通して広報するなど募集要項の内容の留意点について応募者に喚起の上, 募集することにした。
3. 夏期講座の事務委託契約について
参加登録システムの提供, 参加登録受付事務について中西印刷株式会社と委託契約を行った。

(6) 聴覚障害を有する会員への支援について

- ・今後の支援方法として音声認識ソフトの利用を検討すること, 今大会は授賞式で 1 件の手話通訳の支援を行うことが報告された。

(7) 2020 年度科学研究費補助金研究成果公開促進費 (国際情報発信強化) の応募について

- ・今年度の計画調書では, 和文参照文献の英訳化を加えて応募することが報告された。

(8) YouTube, Twitter, Facebook などのアカウント取得について

- ・SNS を広報利用するため, YouTube, Twitter, Facebook などの適切なアカウント名の取得を行うことが報告された。

(9) 評議員の地区別選出の廃止について

- ・評議員の地区別選出を定める選挙規則の改定について, 次回の評議員会で審議することが報告された。

(10) 人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) について

- ・参加学会から会員数に応じた活動分担金を徴収する予定であることが報告された。

[審議事項]

(1) ポスター発表活性化にともなう大会発

表スケジュールの変更について

- ・ポスター発表の活性化のため, 口頭発表を 1 会場 6 発表とし, ポスター発表のコアタイムを設けることが承認された。

(2) 「言語学オリンピック」への学会としての関わり方について

- ・「国際言語学オリンピック」の国内選抜にあたる「日本言語学オリンピック」の開催について, 学会として後援することを決定した。また, 今後大会において高校生向けのワークショップ等を開催してはという提案があった。

(3) 倫理委員の選出について

- ・任期は 1 年とするが, 次年度は 4 月に半数の新委員を選出し, 以後は半数ずつ交代することが承認された。

——編集委員会——

- ・『言語研究』第 160 号 (2021 年 9 月刊行予定) では, 「文法と情報構造」というテーマで特集論文を募集する。原稿締め切りは 2020 年 12 月 31 日。

——大会運営委員会——

2019 年度第 2 回大会運営委員会

日 時: 2019 年 9 月 7 日 (土) 11:00 ~ 16:00

場 所: 名古屋学院大学 名古屋キャンパス しろとり

出席者: 山越康裕 (大会運営委員長), 金善美 (副委員長), 尾谷昌則, 小野 創, 小磯花絵, 中村 渉, 成田広樹, 林範彦, 堀 博文, 宮地朝子 (大会運営委員)

[報告事項]

- (1) 第 158 回大会 (一橋大学) の終了報告が大会運営委員長よりなされた。
- (2) 第 159 回大会 (名古屋学院大学) に関する準備状況が大会運営委員長より報告された。

[審議事項]

- (1) 第159回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表49件(応募90件, 受理89件), ポスター発表5件(応募6件, 受理6件), ワークショップ4件(応募4件, 受理4件)を採択することとした。発表辞退はなかった。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は7会場7本(移動10分)とし, 各発表の振り分け, 会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案されたシンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場, 受付, 書店展示, 保育室, 休憩室, 懇親会などの各種会場の設定について検討を行い, 決定した。
- (4) ポスター発表活性化について継続審議し, 大会1日目午後1時以降にポスター発表を組み入れ, 口頭発表を1会場6本に減らす案を常任委員会に提案することとした。

——広報委員会——

1. 学会からのお知らせ(大会情報, 論文賞, 大会発表賞, 多様性プロジェクトなど)と学会関連情報(公募情報, 研究会情報など)を随時更新した。
2. 広報委員会, 夏期講座委員会, 大会運営委員会の委員(長)の入れ替えに伴い, ウェブサイト上の氏名等の更新を行った。
3. TwitterとFacebookページのアカウントを作成した。
<https://twitter.com/LingSocJpn>
<https://www.facebook.com/LingSocJpn>
 2020年1月末現在, 運用は開始しておらず, 「準備中」である旨を表示している。
4. 学会ウェブサイト左側のサイドメニューの「日本言語学会について」の一番下に, 新たに「倫理委員会への相談窓口」という項目を追加した。

——夏期講座委員会——

日 時: 2019年7月7日 13:00～17:00
 場 所: 京都大学文学研究科2階 第1演習室
 出席者: 内堀朝子, 田中真一, 千田俊太郎,
 本多 啓, 宮本陽一, 渡辺 己

(以下の内容には当委員会後に決定したものも含む。)

1. 夏期講座2020の開催校・日程・実行委員会メンバー
 開催校: 神戸大学
 日程: 2020年8月24日(月)～8月29日(土)
 実行委員会: 田中真一(実行委員長), 岸本秀樹, 澤田 治, 高橋康徳, 巽智子
2. 夏期講座2020の科目・講師
 次のように決まり, 講師には委嘱状を送付した。

科目	講師
生成文法 (初級)	高橋 将一 青山学院大学・文学部
生成文法 (中上級)	高野 祐二 金城学院大学・文学部
フィールド 言語学 (初級)	林 範彦 神戸市外国語大学・総合文化 コース
認知言語学 (中上級)	早瀬 尚子 大阪大学大学院・言語文化研 究科言語文化専攻(豊中)
音声学 (初級)	朱 春躍 神戸大学大学院・国際文化学 研究科
社会言語学 (中級)	仲尾 周一郎 大阪大学大学院・言語文化研 究科言語社会専攻(箕面)
音韻論 (中級)	上田 功 名古屋外国語大学・外国語学 部
形式意味論 (初級)	楠本 紀代美 関西学院大学・文学部
歴史言語学 (中上級)	アダム・キャット 京都大学大学院・文学研究科

コーパス言語学(初級)	石川 慎一郎 神戸大学大学院・国際文化学 研究科
日本語文法 (中上級)	加藤 重広 北海道大学大学院・文学研究 科
形態論 (初級)	大関 洋平 早稲田大学・理工学術院

3. 夏期講座 2020 の受講料 (カッコ内は前回の受講料)

以下のように決めた。

学生会員： 15,000 円 (17,000 円)

学生非会員： 20,000 円 (20,000 円)

一般会員： 25,000 円 (27,000 円)

一般非会員： 30,000 円 (30,000 円)

4. 夏期講座 2020 の特別講演候補者

伊藤順子氏 (UCSC) にご講演いただくことになった。

なお、12 月 19 日に神戸大学にて、渡辺己前夏期講座実行委員長から、上記夏期講座 2020 実行委員会へ引き継ぎをおこなった。

——学会賞選考委員会——

2019 年度第 2 回学会賞選考委員会

2019 年 8 月 7 日から 8 月 22 日にメール審議。これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は、7 月 8 日から 7 月 31 日にメール審議。

[審議事項]

(1) 第 158 回大会発表賞について
桐生大会発表賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、3 名の受賞者を決定した (審査対象 9 件)。

2019 年度第 3 回学会賞選考委員会

2019 年 10 月 12 日から 10 月 15 日にメール審議。

これに先立つ論文賞選考部会の審議は、8 月 4 日から 10 月 12 日にメール審議。

[審議事項]

(1) 2019 年度論文賞について
中谷論文賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、1 名の受賞者を決定した (2017

年度と 2018 年度の 2 年間に刊行された『言語研究』(152 号, 153 号, 154 号, 155 号) 掲載論文のうち、審査対象 6 編)。

2019 年度第 4 回学会賞選考委員会

2020 年 3 月 16 日から 3 月 20 日にメール審議。これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は、2019 年 12 月 1 日から 2020 年 1 月 28 日にメール審議。

[審議事項]

(1) 第 159 回大会発表賞について
桐生大会発表賞選考部会長より原案が提示され、審議の結果、1 名の受賞者を決定した (審査対象 8 件)。

謝 辞

第 158 回大会および第 159 回大会発表賞、2019 年度論文賞の選考にあたり、多くの会員に審査員として御協力いただきました。以下に、御承諾をいただいた方々のお名前を掲載いたします (敬称略、五十音順)。

[大会発表賞]

有田節子	井上 優	上山あゆみ
江畑冬生	生越直樹	小野 創
風間伸次郎	加藤重広	川崎典子
河内一博	岸田泰浩	岸本秀樹
木部暢子	金水 敏	窪菌晴夫
呉人 恵	相良啓子	佐々木冠
下地理則	千田俊太郎	西村義樹
野田尚史	長谷川信子	林 徹
林 範彦	広瀬友紀	福井直樹
藤代 節	星 英仁	堀 博文
堀江 薫	益岡隆志	松本 曜
宮本陽一	米田信子	渡辺 己

[論文賞]

井上 優	江口 正	小泉政利
小林正人	中谷健太郎	那須川訓也

以上

——倫理委員会——

2019 年度第 1 回大会倫理委員会

日 時：2019 年 11 月 16 日 (土) 12:30 ~

13:00 その後メール審議

場 所：名古屋学院大学 名古屋キャンパス
しろとり 曙館 516 室

出席者：田窪行則（委員長），由本陽子（副
委員長），小磯花絵，笹栗淳子，定延利之，
早津恵美子，松井理直，渡辺 己

[審議事項]

- (1) 相談窓口について会員に周知するための方策について以下の通り決定した。
HPに「倫理委員会への相談窓口」を掲載する。
相談者はまず相談の大きな内容をフォーマットに記入し事務支局（専用のメールアドレス）に送ることとする。
- (2) 会員に向けてのHP掲載文の文案について詳細に亘る議論を行い，以下の通り決定した。

本相談窓口では，日本言語学会が関わる諸活動（大会，夏期講座，学会誌）における各種のハラスメント，「日本言語学会倫理綱領」に反する行為（剽窃，盗用，不適切な引用などを含む）についてのご相談をうけつけます。

まずは，フォーマット（別紙）に従い，相談についての大きな内容を相談窓口でメールでご連絡ください。

その際，加害者の具体的な氏名までは書かないようにしてください。

また，日本言語学会の倫理委員会委員（学会HPの「組織・役員等」をご覧ください）の中で，特に相談をしたい委員があれば，1，2名選んで書いてください。

ご相談の件の担当者が決まり次第，担当者から直接メールを差し上げますので，連絡先と所属も明記してください。相談者名，相談内容について，倫理委員会と関係者は守秘義務を守ります。

相談内容については，できれば具体的な記録（いつ，どこで，誰が，何をしたか）をつけ，証拠を準備しておくようにしてください。電子メール，ファックス，留守番電話，写真なども証拠となります。目撃者が

いれば，証人になってもらうこともよいでしょう。

大会や夏期講座の期間中に生じた緊急性の高い事態については，大会本部あるいは夏期講座本部に直接ご連絡いただいで結構です。

なお，ご相談の内容によっては，ご希望の委員が担当できない場合や，学会では対応できない問題もあり得ますので，ご了承ください。

- (3) 相談を受け付けた後のプロセスについては，内規として大きなことのみを決め，第2回以降の委員会で継続審議することとした。
- (4) その他，心理実験や脳生理学の手法を用いた言語研究を行う場合の倫理指針について議論し，次回再審議のうえ，倫理綱領に盛り込むこととした。

第 159 回大会

期日 2019年11月16日(土)・17日(日)

会場 名古屋学院大学

公開シンポジウム 11月17日(日) 13:20～16:20(翼館4階 クラインホール)

「AIによって揺さぶられる言語理論—意味論の観点から—」		司会：今仁 生美
(S1)	趣旨説明	今仁 生美
(S2)	『AIは生活していない』の意味について	中島 秀之
(S3)	深層学習で意味の深みへ	松尾 豊
(S4)	こころから見た意味論—シミュレーション理論とフレーム意味論とメトロン君—	鍋島弘治朗
(S5)	理論言語学に未来はあるか?	窪田 悠介

口頭発表

—第1日(11月16日(土)) 13:00～17:40—

・A会場

(A1)	13:00～	ドラヴィダ語族クルフ語・マルト語の不定詞の史的再建	小林 正人
(A2)	13:40～	サンスクリット文献『シャタパタ・ブラーフマナ』における非従属節化	張 倩倩
(A3)	14:20～	外来語定着過程の日韓比較—「ケース」「カード」を事例として—	黄 秀智
(A4)	15:00～	日本語における語の情報量と持続時間の関係	橋本 大樹
(A5)	15:50～	滋賀県湖北方言の -tar-u 形式の有生性とアスペクト	脇坂美和子
(A6)	16:30～	鳥取県中部および東部方言における平板型アクセントの音調配列の分布と変化	桑本 裕二
(A7)	17:10～	日本語否定疑問文のイントネーション	孫 爽

・B会場

(B1)	13:00～	ベトナムランソン省チャンディン県ヌン語の母音体系	平野 綾香
(B2)	13:40～	ベトナム語南部方言の形成過程における発芽音の音韻化の役割—クアンナム方言の事例より—	通山 絵美
(B3)	14:20～	千葉県南房総市三芳方言の形容詞語形変化	佐々木 冠
(B4)	15:00～	ふぞろいの単語たち：上甕島瀬上方言の語形を左右する3種類の処理単位	黒木 邦彦
(B5)	15:50～	南琉球宮古島旧城辺町新城方言における二重主語文と所有傾斜	王 丹凝
(B6)	16:30～	北琉球奄美喜界島小野津方言の疑問文末標識と言語行為—話し手の行為遂行に関する疑問文を中心に—	白田 理人
(B7)	17:10～	沖縄語の形態格：依存格理論による分析	吉本 靖

・C会場

(C1)	13:00～	バスク語の副動詞 V-z の従属関係	石塚 政行
(C2)	13:40～	アラビア語チュニス方言の起動動詞が存在を表す用法について	熊切 拓
(C3)	14:20～	ジンポー語の変化相と限界性	倉部 慶太
(C4)	15:00～	ブヌン語僻社方言の疑問詞末尾に生じる q	野島 本泰

- (C5) 15:50 ~ 保安語積石山方言の「生まれる」と「産む」を表す表現 佐藤 暢治
- (C6) 16:30 ~ タタール語における代名詞化した限定詞との一致について 菱山 湧人
- (C7) 17:10 ~ Vowel harmonies in Kazan Tatar: Element theoretical analysis Chihiro TAGUCHI
- D 会場
- (D1) 13:00 ~ 左周辺部と外在化 大塚 知昇
- (D2) 13:40 ~ “自分”の指示決定における「視点」の役割とその統語的分析 伊藤健太郎
- (D3) 14:20 ~ 日本語の動詞句イディオムにおける省略現象について 下村 郁佳
星 英仁
- (D4) 15:00 ~ 主語句からの抽出における DP と PP との非対称性: ボトムアップ式の統語計算に基づくアプローチ 内芝 慎也
- (D5) 15:50 ~ 日本語の主格目的語に見られる作用域の不一致に関する一考察 中野 晃希
- (D6) 16:30 ~ ロシア語における数詞句と格付与について 後藤 雄介
- (D7) 17:10 ~ 間接受身文の単文構造分析 上山あゆみ
林下 淳一
- E 会場 (曙館 402)
- (E1) 13:00 ~ On the distribution of genitive subject in Kazakh Yu-Han XIE
Hideki MAKI
- (E2) 13:40 ~ 日本人英語学習者による why・what 疑問文の倒置の習得: 短距離・長距離 wh 移動の違いに焦点を当てて 野地 美幸
中島 基樹
- (E3) 14:20 ~ 日本語の尊敬表現の理解における Similarity-based Interference 祐伯 敦史
- (E4) 15:00 ~ 「-テイル」の諸機能の構造と機能間の曖昧性に対する定量的検証—第二言語習得研究への応用を目指して— 山田 祐也
堀江 薫
- (E5) 15:50 ~ 日本語母語話者と学習者による新奇動詞の活用形選択～動詞タイプとインプットの影響～ 加藤 杏奈
小野 創
郷路 拓也
- (E6) 16:30 ~ 言語間で共有される統語処理: 日本語と中国語の2言語併用者の文理解の検証 謝 尚琳
木山 幸子
小泉 政利
- (E7) 17:10 ~ 言語間字体類似度が2言語併用者の語彙アクセスを妨げる: 中日同根語の視線計測による検討 熊 可欣
新国 佳祐
宋 凌峰
卓 雅
邑本 俊亮
木山 幸子
- F 会場
- (F1) 13:00 ~ 日本語の「場所格交替」の全体効果はどのように生じるか 杉浦 滋子
- (F2) 13:40 ~ 格助詞が果たす接続関係の意味への貢献に関する構文文法的考察—PトキQ構文/PトキニQ構文に見られる意味の差に着目して— 松浦 幸祐

- (F3) 14:20 ~ プロソディによる「誰にも」の否定・肯定極性判断 冀 媛媛
玉岡賀津雄
布目 孝子
マイケル・P・マンズブリッジ
- (F4) 15:00 ~ 弱い否定極性項目としての「NらしいN」表現 長谷部郁子
神谷 昇
- (F5) 15:50 ~ 対称性副詞句の内部読み 矢田部修一
- (F6) 16:30 ~ 現代日本語における「トイウカ」のメタ言語用法 川北 麻由
- (F7) 17:10 ~ 「曖昧」な潜在意味概念の分析にむけて：ノ・コトの間のバリエーションについての統計的アプローチ 山田 彬堯
窪田 悠介

◦ G 会場

- (G1) 13:00 ~ 当為的 (deontic) モダリティ形式としての V テオク 金谷由美子
- (G2) 13:40 ~ V-e-te-i-ru 形式のアスペクト解釈について 高橋 英也
江村 健介
- (G3) 14:20 ~ 日本語の代名詞一名詞表現と連想複数 橋本 将
- (G4) 15:00 ~ 日本語不確定代名詞重複表現の分布について 工藤 和也
- (G5) 15:50 ~ De Re indexicals in Rendille Sumiyo NISHIGUCHI
- (G6) 16:30 ~ The internal structure of the bound *we* Asako MATSUDA
- (G7) 17:10 ~ Shifty indexicals and logophors in Japanese Hisashi MORITA
Gillian RAMCHAND

ワークショップ

—第2日 (11月17日 (日)) 10:00 ~ 12:00—

◦ ワークショップ 1

- (W1) 鹿児島県甌島方言の音声と文法 企画者・司会者：窪蘭 晴夫
コメンテーター：木部 暢子
- (W1-1) 甌島方言のアクセント 窪蘭 晴夫
- (W1-2) 甌島方言の二格・バ格標示の形容詞 久保蘭 愛
- (W1-3) 九州方言における甌島方言の敬語運用 酒井 雅史

◦ ワークショップ 2

- (W2) 発達障害の言語の問題をカートグラフィーで捉える 企画者：遠藤 喜雄, 幕内 充
司会者：遠藤 喜雄
- (W2-1) 自閉症の言語障害 幕内 充
- (W2-2) The cartography of syntactic structures: Results and implications for cognitive studies Luigi Rizzi
- (W2-3) 発達障害のカートグラフィー 遠藤 喜雄
- (W2-4) 発達障害の音韻的特性 那須川訓也

◦ ワークショップ 3

- (W3) シネドキシの世界：カテゴリー化の言語学 企画者：田中 太一
司会者：西村 義樹
コメンテーター：西村 義樹, 山泉 実

- (W3-1) 提喩とカテゴリー化：提喩能力をめぐって 田中 太一
- (W3-2) 自己比喩とカテゴリー化：「にすぎる」と「にすぎない」の否定的評価 佐藤 らな
- (W3-3) 提喩，隠喩，事象構造：日本手話の使役の記述を通して 松田 俊介
- (W3-4) 全体と部分，グループとメンバー，類と種：チェコ語の HAVE, BELONG, BE の記述を通して 浅岡健志朗
- 。ワークショップ 4
- (W4) 構文形態論の新地平：複合語・繰り返し・「語」の境界
企画者・司会者・コメンテーター：長屋 尚典
- (W4-1) 広島方言における 2 つの「よう + 否定」構文の構文形態論的分析
茂木洗太郎, 高城 隆一
- (W4-2) 英語複合語 N-s-man の構文形態論的分析—属性叙述と spokesman 島田 翔平
- (W4-3) 指定コピュラ文の意味構造をもつ NN 複合語の構文スキーマ：外国人相手のビジネス，体目当ての男，野菜メインの食事 氏家 啓吾
- (W4-4) トルコ語の反復と重複：形態論と統語論の境界を考える 鈴木 唯

ポスター発表

—第 2 日 (11 月 17 日 (日)) 11:30 ~ 12:50—

- (P1) 日本語新規動詞の活用 一音便の有無および語幹末子音による比較— 小林 由紀
杉岡 洋子
伊藤たかね
- (P2) 呼びかけ語 title of respect のコミュニケーション機能：humour を用いたボライトネス 小田 希望
- (P3) 神経科学的手法を用いた第二言語音素獲得メカニズムの解明 岡田理恵子
倉橋 農
- (P4) 南琉球多良間方言のアクセントの弁別特徴と名詞句のアクセント 新田 哲夫
- (P5) 代名詞代用語の意味論 野元 裕樹

◇退会

国内通常会員：8名
国内学生会員：6名
国内団体会員：2名
16名

◇入会

国内通常会員：28名
在外通常会員：1名
国内学生会員：30名
59名



日本語学会学会賞報告

第158回大会（2019年春季、一橋大学）の大会発表賞（3件）

・小川雅貴氏

「局所的有生性による日本語の能動態・受動態選択：東京方言・東北方言・近畿方言の比較」
能動態と受動態の選択に方言差が見られるという従来の研究成果をより精密に検討するために、10項目の他動的事態を描いた絵を用いた実験を、東北、東京、近畿の大学生に対して行い、その結果を報告したものである。課題設定はやや新規性に欠けるもののきわめて明解で、議論の展開も堅実であり、導き出された結論にも妥当性が認められる。論証のための実験方法や分析方法にやや改善の余地があるが、今後の発展が期待される研究である。発表の仕方にも工夫がこらされていてわかりやすかった点も大会発表賞として高く評価される。

・松岡葵氏

「言語類型論的観点から見た宮崎県椎葉村尾前方言における形容詞経験者構文の格標示」
発表のテーマは宮崎県椎葉村尾前方言における形容詞経験者構文の取り得る格フレームであるが、その構文の3つの格フレーム（「主格-対格」、「主格-主格」、「主格-与格」）を現地調査で採取したデータの整理に留まらず、サンプル言語の経験者構文が取り得る格フレームという通言語的データを視野に入れて類型論的に分析した点は高く評価することができる。発表のスピードがやや速かったものの、総じて聞き取りやすく、また、パワーポイントも理解が容易であり、事前に周到に準備・練習されていたことが分かる。また、質問への回答も的確であり、調査と分析が充分になされていることが窺えるものであった。

・矢野羽衣子氏（共同発表者：松岡和美氏）

「愛媛県大島宮窪手話における一致動詞の空間使用」
手話言語には主語と目的語の文法関係を空間的に表示する「一致動詞」が広く見られるが、愛媛県大島宮窪手話の対応する動詞では、第三者同士の主語・目的語を表示する空間使用が確立されておらず、有生性や視覚的な目立ちやすさが言語表現の選択に影響していることが映像実験を通じて明らかにされた。関連現象の予備調査や統制群との比較などの調査手法や使用動画もよく吟味されていた。発表は日本手話で行われたが、映像で宮窪手話と日本手話を対照させるなど、具体的で分かりやすいものであり、質疑応答にも冷靜的確に対応していた。

2019年度の論文賞（1件）

・KURABE, Keita 氏

“Deaspiration and the Laryngeal Specification of Fricatives in Jinghpaw” 『言語研究』153号（2018年3月）

本論文は、ジンポー語（北ビルマ：シナ・チベット語族）の一見異なるいくつかの形態・音韻現象について、無気音化という観点から統一的な説明を提案する。すなわち、無声摩擦音に [+spread glottis] の素性を付与することにより、帯気閉鎖音の無気音化現象を一般的な音韻原理である義務的起伏原理（OCP）から導くことができるという分析である。異質に思える音声群が音韻的に自然類を成すと分析するだけで、一見バラバラな諸現象にシンプルかつ統一的な説明を与えることができることが説得的に主張されており、音声を音韻論的に分析することの重要性を示す論文であると言える。また、フィールドワークを通じたデータの収集や堅実な観察など、方法論の面も評価された。以上の理由から、本論文を日本言語学会論文賞授賞推薦論文としてふさわしいものと判断する。

第159回大会（2019年秋季、名古屋学院大学）の大会発表賞（1件）

・白田理人氏

「北琉球奄美喜界島小野津方言の疑問文末標識と言語行為一話し手の行為遂行に関する疑問文を中心に」

本発表は、北琉球奄美喜界島小野津方言における疑問文末形式について論じた研究である。現象としては他の方言にも見られるものだが、一般疑問文および話し手の行為遂行疑問文について聞き手に答えを求めると求めないかという言語行為の面に着目し、真偽疑問文・疑問詞疑問文に現れる5つの文末標識を体系的に整理、話者の行為遂行について聞き手に答えを求めると否かで -(r)oo=ka と -(yu)mi(=ya) の使い分けがあることを明らかにした。-(yu)mi については、説明できない用法があるなどまだ課題は残されているが、方言の形態・統語論、意味論、語用論にまたがる研究であり、新しい領域を切り開く意欲が感じられる内容である。発表においても、データを適切に提示しつつ検証を行っており、また、質問に対しても要領よく応答し、好感のもてる発表であった。



◇『言語研究』第156号のp.67の柱に誤りがありましたので、下記の通り訂正いたします。

(誤) 言語研究 (<i>Gengo Kenkyu</i>) 000:67-96 (2019)	doi:10.11435/gengo.154.0_67
(正) 言語研究 (<i>Gengo Kenkyu</i>) 156:67-96 (2019)	doi:10.11435/gengo.156.0_67

2019 年度役員

【会長】

田窪行則

【顧問】

上野善道, 影山太郎, 梶茂樹, 国広哲弥,
窪蘭晴夫, 柴谷方良, 早田輝洋, 松本克己

【常任委員】

江口正, 小野尚之, 菊澤律子, 桐生和幸,
久保智之, 千田俊太郎, 中谷健太郎, 野田尚史,
福井直樹, 米田信子, 渡辺己

【事務局】

有田節子(事務局長), 金城由美子, 早田清冷

【評議員 (70名)】

[北海道] 奥 聡, 時崎久夫, 野村益寛 [東北]
小野尚之, 小泉政利, 後藤斉, 那須川訓也 [関
東] 庵功雄, 石井透, 伊藤たかね, 井上優,
遠藤喜雄, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 生越直樹,
風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣,
工藤真由美, 窪蘭晴夫, 小林正人, 滝浦真人,
田中伸一, 長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史,
長谷川信子, 林 徹, 早津恵美子, 福井直樹,
福井玲, 松本曜, 渡辺己 [中部] 江畑冬生,
呉人恵, 斎藤衛, 佐久間淳一, 澤田治美,
杉崎鉦司, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江薫,
町田健 [近畿] 有田節子, 影山太郎, 梶茂樹,
金水敏, 佐々木冠, 定延利之, 沈 力, 千田
俊太郎, 林範彦, 藤代節, 益岡隆志, 宮本陽一,
由本陽子, 吉田和彦, 吉田豊, 米田信子 [中
国・四国] 桐生和幸, 塚本秀樹, 辻星児,
宮崎和人, 和田学 [九州・沖縄] 青木博史,
江口正, 狩俣繁久, 久保智之, 下地理則

【編集委員会】

井上優(委員長), 青柳宏, 井川壽子, 岸本秀樹,
小林正人, 佐々木冠, 定延利之, 鍋島弘治朗,
藤井洋子, 由本陽子, 米山聖子

【特別編集委員】

(未定)

【大会運営委員会】

伊藤さとみ(委員長), 江畑冬生,
大島デヴィッド義和, 金廷珉, 小磯花絵,
品川大輔, 柴崎礼士郎, 下地理則, 成田広樹,
林範彦, 星英仁, 宮地朝子

【広報委員会】

小泉政利(委員長), 石田尊(英語ページ
webmaster), 那須川訓也, 広瀬友紀, 藤本
真理子, 堀博文(危機言語担当), 松浦年男(日
本語ページ webmaster)

【夏期講座委員会】

渡辺己(委員長), 内堀朝子, 木山幸子,
田中真一, 千田俊太郎, 本多啓

【学会賞選考委員会】

久保智之(委員長), 庵功雄, 江口正, 桐生和幸,
中谷健太郎, 福井直樹, 松本曜

【倫理委員会】

田窪行則(委員長), 由本陽子(副委員長),
小磯花絵, 笹栗淳子, 定延利之, 林 徹,
早津恵美子, 松井理直, 渡辺己

【会計監査委員】

上山あゆみ, 加藤重広